

実績報告

看護部

- 2階病棟
- 3階病棟
- 4階病棟
- 5階病棟
- 精神科救急病棟

- 中央材料室



看護部

【平成30年3月31日時点の看護部スタッフ数】

看護配置基準	15:1
看護師	132名（非正規5名含む）
准看護師	5名
看護補助	19名（非正規3名含む）

【平成29年度採用者・退職者数】

	4月1日 新卒採用者	4月以降 既卒採用者	4時間以上勤務 のパート採用数	正規職員 退職者数
看護師	8名	5名	1名	8名
准看護師				0名

【看護職員の離職率】

平成29年度常勤看護職員の離職率は5.5%（10.9%）、新卒看護職員は0%（7.8%）

※カッコ内は公益社団法人日本看護協会平成28年度調査結果

【平成29年度活動を振り返って】

- ①権利擁護、接遇に配慮した質の高い看護の提供を実践する。

治療抵抗性の高い、極めて不穏、興奮が著しい、長期入院、意思表示の困難

終末期、業務が重複して繁忙を極める時などを振り返ると患者とその家族への関わりに個人または病棟全体に課題を残していると感じる。タイムリーに課題を共有、改善する習慣をつけていきたい。

接遇委員会による具体的な取り組みがスタッフへの行動変容に反映されていないため、より一層の活動に期待したい。

- ②医療事故防止：インシデント・アクシデントレポート発生総件数の減少に努め、安心・安全な医療提供を実現させる。

平成29年度南浜病院におけるインシデント・アクシデントレポートの総件数は632件（前年度-19件、-3%）であった。精神科救急病棟、慢性期高齢（認知症対応）、ストレス緩和病棟の報告件数が多かった。

事故の種類上位1位は：転倒・転落190件（前年度-22件、うちレベル3は7件、前年度+2件）2位：薬剤146件（前年度+38件）、3位：器物破損95件（前年度+40件）であった。

1位の転倒・転落については入院者の高齢化、認知機能障害、安全対策への理解と協力困難などが考えられるが、この傾向は持続すると考えられるため、個別性、具体性を考慮した対策が肝要で、看護職員の再認識、教育を実践していきたい。

2位の薬剤はヒューマンエラーによるところが多い。平成28年度同様に防止強化月間を設けたが当該月を過ぎると増加復調が認められる。

3位は器物破損が平成28年度4位55件から一転、インシデント・アクシデントレポート総件数の15%を占める結果となった。同一患者によることが多く、治療や看護の評価と改善策、チームでの関わり的重要性が認識できた。

平成29年度インシデント・アクシデントレポートの総件数を微減できたが、薬剤は増加した。結果を真摯に受け止め、分析と改善策の実践が急務である。

今後も管理・監督者、リーダーに求められる姿勢やマネジメント能力の課題を明確にしたいと考えている。繁忙な業務傾向にある中、看護職員一人ひとりが、より患者の立場で気持ちよく仕事ができ、安全確保、質の担保につながる健全な職場づくりを目指していきたい。

【平成30年度抱負】

- ①医療事故防止：インシデント・アクシデントレポート発生総件数の減少に努め、安心・安全な医療提供を実現させる。
②権利擁護、接遇に配慮した質の高い看護の提供を実践する。

看護部長 大滝 寛

【部署名】

2 階病棟

【種 別】

精神一般

【病床数】

50床

【職 種】

31名（看護師19名 准看護師1名 看護補助員11名）

【業務内容】

2階病棟は、開放病棟対象の精神疾患の患者や内科的疾患を合併している患者、廃用症候群等により寝たきり或いは歩行が困難で車椅子生活を余儀なくされている患者が通常7割以上入院している病棟である。

入院患者の内、経管栄養の患者が10名前後、オムツ使用者で寝たきり及び車椅子使用患者がほとんどである。内科的疾患を合併している患者には内科機能を十分に発揮しつつ、寝たきり予防のため、車椅子の乗車時間を設け、作業療法（以下OT）への参加を促し、心身共にメリハリのある日常生活を送れるよう細心の注意を払いながら、事故のないよう援助・ケアを提供している。個人OTとして個別の身体リハビリも実施しており、機能の向上・維持を図るなど、病棟担当OTと一緒に援助・指導している。認知症の患者もいるので回想法の必要性はあり、内容も見直していく。

急性期の内科疾患患者の輸液・酸素管理など、身体的な管理や高齢に伴う精神科薬投与量の見直し（転倒リスクを踏まえた）にも注意を払っている。加えて、経管栄養の管理や、終末期ケアで患者の希望に沿った援助の中にアロマセラピーを取り入れている。

【H29年度振り返り】

コンセプト：患者さま第一優先の強化とさらに接遇を意識した医療を提供

看護目標：「全ては患者さまのために」

接遇スローガン：「笑顔ではじまるおもてなしSmile innovation」

今年度は掲げた病棟目標を3つの視点から具体化し、確実に実践していく取り組みを行った。病棟で決めた係りが意識的に関わり、進めていく事で、少しでも「全ては患者さまのために」に近づくことが出来たのではないかと思う。

1. 具体的に実践し評価できる病棟目標にする

病棟目標係りを設け、毎月の病棟目標の設定（与薬、拘束、連携に関する内容）振り返りを行い患者サービスの向上を目指した。

2. 更なる接遇向上への取り組み

コミュニケーションに焦点をあてた病棟勉強会を開催し、接遇向上のための具体的な実践を行った。面会時の家族との関わりや言葉使い、身だしなみについて指摘があった。

3. 部署内でのスキルアップの取り組み

病棟勉強会の開催（接遇、褥瘡、フィジカルアセスメント、心電図、AEDの使用法、オムツの当て方）その他に、今年度は25回（1回2～3名程度）外部研修に参加した。病棟で必要とされる研修や、外部研修で得た知識をスタッフに伝達出来た。

【今後の展望】

病棟ケースカンファレンスの強化と家族カンファレンスや面会の推進などは達成が不十分で、アクションプランの内容

を、スタッフ個々で意識し実践することの難しさが課題として残った。特殊疾患入院施設管理加算対象者比率70%以上の病棟であり、肉体労働も多く、スタッフの体調管理にも気を配らなければならない中、私たちスタッフは、やってあげるのではなく、患者にとって何か出来ることはないか、可能性を見つけられるようなアプローチを行うことが重要である。今後も、病棟配置OT・PSWと連携して患者第一とした援助を行っていく事を心掛けていく。

文責 柴田 実子

【実績】

	特殊疾患入院施設管理加算対象率
4月	71.4%
5月	72.0%
6月	76.0%
7月	75.5%
8月	77.6%
9月	78.0%
10月	75.0%
11月	74.0%
12月	71.4%
1月	72.0%
2月	72.6%
3月	71.4%

【全病棟患者個別身体リハビリテーション状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介入平均数	3.55	3.9	3.31	3.75	3.09	3.85	5.95	5.6	6.85	5.43	5.25	4.9
介入合計	71	78	73	75	68	77	125	112	144	87	63	103

【回想法実施状況】 1クール8回 毎週火曜日15時～

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加人数	9名	13名	9名	10名	20名	12名	3名	16名	15名	15名	10名	14名

【部署名】

3 階病棟

【種 別】

精神一般

【病床数】

59床

【職 種】

25名（看護師20名 准看護師1名 看護補助員4名）

【業務内容】

長期入院者及び治療抵抗者の退院支援と、精神科救急病棟をはじめ、他病棟の後方支援病棟としての役割を担っている。急性症状を呈した患者と慢性症状を呈し入院が長期化している患者が混在しており、患者の病状に合わせた生活スキルの向上、機能回復及び自立に向けた支援を行っている。

看護体制は、プライマリーナーシングと機能別看護であり、入院から退院まで一貫した担当看護師と担当精神保健福祉士が関わり、患者自身の病状と治療の経過の評価・患者・家族の面談の実施、必要な支援体制の提案を行っている。

患者の希望を現実に繋げられるよう、定期的にカンファレンスを実施し、方向性を定め、他職種によるサポート支援も進めている。

退院後の支援についても、社会資源の情報提供や、時には地域移行に関係する方々にも来院して頂き、患者がその人らしい生活が送れるよう、関係者で支援体制作りをしている。

【今後の展望】

平成29年度の目標評価で処遇困難な患者の安全で清潔な環境作りが難しかった事や自己主張のない患者をしっかりと観察出来ない事があった等から、『私たちは日々の関わりの中で患者様のサインに気付き、安全な看護を提供します』とした。課題の改善に努め、目標が達成出来るよう、3階スタッフ一同全力を尽くす。

また、認知症患者の入院や移動もあり、回想療法実施に向け準備している。回想法を通じて、脳の活性化、コミュニケーションの意欲の向上、心の安定に繋げたい。

今後、入院している全ての患者の希望する生活実現のため、以下の内容に重点を置き支援を進めていく。

- ・プライマリーナースとして責任を持って、看護を提供する。
- ・チームとして継続した看護を実践する。
- ・患者や家族が安心して入院出来る、安全で清潔な環境づくりに努める。
- ・回想療法を実施し、認知症の予防に努める。
- ・行動制限の早期解除に向けた評価と取り組みを行う。
- ・地域における支援者との関係作りや社会資源の活用とサポートを行う。

文責 神田由香里

【実 績】

H29. 4～H30. 3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院患者数	6	3	6	4	4	9	6	4	7	5	1	1
退院患者	9	5	7	4	5	10	5	5	11	4	5	7
転入患者	6	5	8	4	10	6	7	3	4	6	7	10
転出患者	8	2	8	3	11	6	7	2	4	5	3	1
1日平均患者数	57.6	55.9	56.5	55.2	53.9	52.1	53.5	52.7	58.4	49.8	53.9	53

【部署名】

4 階病棟

【種 別】

精神一般

【病床数】

58床

【職 種】

27名（看護師22名 准看護師 1名 看護補助員 4名）

【業務内容】

4 階病棟は比較的安定した慢性期の精神症状を有する患者の他、救急病棟で治療対象とならない認知症患者の受け入れ病棟という位置づけである。

慢性期の長期入院患者には社会参加・社会復帰するための支援を、認知症患者や日常生活で介助を有する患者には、快適で穏やかな療養生活を提供し、退院へ向けてのアプローチを行っている。

昨年度に引き続き認知症患者を対象とした小グループを作り、感情の安定や不安感・孤独感の軽減、自分の培ってきた力の再発見、自尊心の向上などを目指した『回想法』を実施継続してきた。しかし、今年度の回想法は定期的開催されず不定期開催となった。理由としてメンバーが固定できなかったことが挙げられる。今後も回想法のメンバー選定の際、対象者の条件を広げたりするなど工夫が必要である。

今年度より精神保健福祉士の病棟配置があり、このことによって退院後の帰結先やサービス利用など、家族との相談や調整などスムーズに行えるようにした。

病棟患者の平均年齢は70歳を超え、認知症患者の病棟患者比率も40%を超えてきている。誤嚥や転倒などのリスクが高くなってきているため、リスク軽減ができるような看護、援助を行っていく必要がある。

【今後の展望】

- ・退院に向けた多角的なアプローチとサポートの継続
- ・担当による、患者個別のコーディネートと院内外他職種・関係各所との連携
- ・環境整備や身体機能の維持、向上を図ることによる転倒リスクの軽減
- ・急変時の対応
- ・患者対応時の接遇意識の向上

文責 布川征一郎

【実 績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入 院	0	0	1	2	0	4	2	1	0	0	2	3	15
退 院	1	3	3	2	3	4	5	5	0	1	2	4	33
転 入	4	2	4	3	6	1	1	2	3	4	4	2	36
転 出	2	1	2	3	3	1	1	2	4	2	0	3	24
1日平均患者数	56.8	57.5	57.0	56.6	55.2	55.8	55.8	50.2	48.8	49.3	52.1	52.0	53.9

【部署名】

5 階病棟

【種 別】

精神一般

【病床数】

58床

【職 種】

23名（看護師22名 看護補助員1名）

【業務内容】

開放病棟という環境的な位置づけから、ストレス症状を持つ軽度のうつ病や心身症、思春期精神疾患など緊急避難的な短期休息入院を目的とした利用がある。また精神科救急病棟の後方支援病棟として、症状の安定した方や、長期の療養が必要な方を受け入れている。

患者自身が看護師や他職種と共に目標を立て、退院後の生活をイメージできるよう適切にコーディネートし、個々に応じたプログラムを提供している。

病棟プログラムとしては、生活技能訓練（SST）、心理教育、認知行動療法、マインドフルネス、集団栄養、アロマセラピーなど、ストレス緩和を目的としたプログラムに重点を置き実施している。

【今後の展望】

社会復帰病棟としての位置づけは変わらないが、精神科救急病棟からの受け入れが増加し、病棟間での連携や継続したケアの提供に重点を置き次年度の病棟目標を掲げた。

「社会復帰病棟として退院後の生活を見据えた看護を展開していく」

1. 入院病棟からスムーズに患者の受け入れを行い、継続したケアを提供する。
2. 社会復帰資源の活用を促進し、地域での生活の具現化に努める。
3. カンファレンスの充実を図り、統一した看護を実践する。

文責 佐藤 敦子

【実 績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入 院	7	7	12	7	7	9	4	4	4	7	4	8	80
退 院	12	14	8	14	8	14	15	9	3	9	6	15	127
転 入	7	3	6	4	7	9	9	2	5	6	10	8	76
転 出	1	2	2	2	3	2	4	3	2	2	4	5	32
1日平均 患者数	54.4	53.8	53.3	54	55	56	54.2	49	47.5	52.1	53.1	52	52.9

【部署名】

精神科救急病棟（南病棟）

【種 別】

精神科救急病棟 I

【病床数】

60床

【職 種】

42名（看護師37名 准看護師1名 精神保健福祉士3名 看護補助員1名）

【業務内容】

精神科疾患患者に対し、急性症状の改善と安全を最優先に心身の安静に努め、集中的な治療と看護を提供している。

個別受け持ち制＋機能別看護で入院時から担当の看護師と精神保健福祉士が関わっている。本人や家族に対して必要な支援体制の提案や心理社会療法プログラムの選定（SST基本訓練モデル、病状自己管理モジュールSST、心理教育、回想療法、作業療法、園芸療法）、患者自身による病状と治療経過の評価、家族・患者面談など担当看護師がコーディネータ役として、患者が担当医療スタッフと話し合いながら主体的に治療をすすめていくことを推進。

患者に安心して療養できる治療環境を提供するため一般フロア49室はすべて個室、他に特室2室、保護室9室、集中的に身体面を治療・ケアするためPICUを設置している。

医師・看護師・精神保健福祉士・作業療法士などの専門スタッフによるチーム医療を提供し、社会復帰を前提に早期退院（3ヶ月以内）を目標に関わっている。その他、看護師臨地実習の受け入れ（新潟医療福祉大学、国際メディカル専門学校など）をしている。4名の臨地実習指導者を中心として、学生が伸び伸びと実習できる環境づくりと精神科看護の奥深い学びができるよう指導している。

【今後の展望】

- ・クリニカルパスやクライアントパスを活用した治療や看護など多職種医療スタッフでの情報共有と専門的な支援
- ・措置入院者退院後支援計画の策定を実施し、行政や関係機関などと連携
- ・隔離の早期解除や統一した評価に向けた隔離評価表の導入・検討
- ・入退院のバランスを踏まえた新規入院患者比率・退院率60%以上のコントロールを継続
- ・地域における支援者との関係づくりや社会資源の活用とサポート力の強化
- ・精神科救急病棟入院料算定要件を維持

文責 和気 一弘

【実 績】

1. 病棟利用状況

	平成28年度	平成29年度	前年比
入院患者数(名)	380	357	23減
月平均入院患者数	31.7	29.6	2.1減
平均在棟日数	55.2	52.5	2.7減

2. 各種プログラム参加状況（1ヶ月あたりの平均参加者数と年間延べ参加数H29. 4～H30. 3）

	平均参加者	延べ参加者数
S S T	24.6	295
心理教育	26.9	323
回想療法	7.0	84
O T	369.7	4,437

3. 疾患別入院数 H29. 4～H30. 3（ICD-10分類）

	* F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9
4月	1	0	12	12	5	0	2	0	2	0
5月	4	0	12	4	1	0	0	0	3	0
6月	2	0	6	10	3	2	1	1	0	0
7月	3	0	12	11	6	0	2	1	0	0
8月	4	0	6	10	3	0	1	1	0	0
9月	1	0	6	11	3	1	2	1	1	0
10月	1	0	13	7	4	1	0	0	0	0
11月	1	1	8	11	2	1	1	0	1	0
12月	1	0	12	18	2	1	1	0	2	1
1月	5	0	10	12	4	0	0	0	1	1
2月	6	1	12	9	3	0	1	1	0	0
3月	2	0	13	14	2	0	1	0	0	0
合計	31	2	122	129	38	6	12	5	10	2

※F00-F09 症状性を含む器質性精神障害
 F10-F19 精神作用物質使用による精神及び行動の障害
 F20-F29 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害
 F30-F39 気分[感情]障害
 F40-F48 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害

F50-F59 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群
 F60-F69 成人の人格及び行動の障害
 F70-F79 知的障害（精神遅滞）
 F80-F89 心理的発達の障害
 F90 多動性障害

4. 新規入院患者入院率と退院率 H29. 4～H30. 3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院率	97.1	99.2	100	99.4	100	99.6	92.6	99.7	98.1	99.8	99.8	99.8
退院率	74.3	80.0	79.2	67.7	65.2	87.0	70.0	79.1	90.5	86.9	79.1	73.5
非再入院率	92.3	95.0	100	95.4	87.5	95.0	95.4	100	100	90.0	78.9	96.0

※非再入院率：新規対象者で3ヶ月以内に退院し、3ヶ月以上自宅または施設で過ごした方を対象

【部署名】

中央材料室

【職員数】

1名（検査科スタッフ兼務）

【業務内容】

- ・各病棟からの注文伝票による医療材料（酸素ボンベ・携帯酸素含む）、衛生材料（患者のオムツ等）の払出し。
- ・必要物品の担当者への発注と納品された物品の検品。
- ・全病棟から受け取っている医療器材の高圧蒸気滅菌による滅菌消毒。
- ・患者の介護用品（車椅子、保護帽、リハビリシューズ、シルバーカー等）の受注、及び担当者への発注と用品の納品。
- ・院内に設置されているAEDの点検と管理。
- ・関係職員へ医療材料等の教育研修を立案。

【今後の展望】

- ・年々、精神及び身体的に多種多様な病態をもった方が増え、必要となる医療材料の種類も増えてきた。引き続き医療材料に関する新しい情報を収集し、より良い物品を提供していきたい。
- ・関係者に、より良質な医療材料・衛生材料の情報を提供することで診療現場での混乱を防ぎ、コスト削減に努める。また、患者が介護用品購入時、スタッフと一緒に一人ひとりに適したものを提供し、日常生活がスムーズに過ごせるように手助けをしていきたい。

文責 村木 憲一

【実績】

平成29年10月 グルテスト勉強会（メーカー担当者に依頼）

平成30年3月 新人研修にて手指消毒について講義（メーカー担当者に依頼）